

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 25 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520305

研究課題名(和文)サルトルの初期批評文芸作品の生成コンテキストに関する研究

研究課題名(英文)Researches on genetic contexts of Sartre's early critic works on literature

研究代表者

重見 晋也 (SHIGEMI, Shinya)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：40303573

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究計画は、『ボードレール』が「コレージュ・スピリチュエル」という題で文芸誌『コンフリュアンス』に掲載されるにあたり、1)戯曲『蠅』の原稿も編集部が戦時中に送付されていたこと、2)戯曲作品が希望を描くのに対してボードレール論が高い倫理観に根ざした行動の実践を要求していること、3)このサルトルの主張はフローベールを筆頭とした「フランス的精神」を批判することで成り立っているとも考えられる点でボードレール論は編集部の判断により戦時中には発表されなかったことを、フランス国立図書館における『コンフリュアンス』誌を始めとするドイツ占領下におけるフランス文芸誌を対象とした集中的な資料調査から明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study illustrates publishing contexts of Sartre's "Baudelaire" on three accounts below by surveying especially magazines published in France under German occupation at the French National Library. 1) The fragment of "Baudelaire" is sent to the editorial board of "Confluences", under the title of "College spirituel", with the text of play "Mouches". 2) While the play describes a hope for future, the text on "Baudelaire" calls on practices of each French reader with high morality. 3) as Sartre's thesis is founded on his critics against "French spirit", symbolized in French writers like Gustave Flaubert, Sartre's fragmental texte might have not been published under German occupation at the option of the editorial board.

研究分野：フランス文学

キーワード：ドイツ占領下フランス文学 サルトル 『コンフリュアンス』誌

1. 研究開始当初の背景

サルトルの文芸批評作品は、例えば「フランソワ・モーリヤック氏と自由」のように、ツヴェタン・トドロフやロラン・バルトらの構造主義的立場をとる批評家からは、作者を対象とする心理学的考察に終始しており、語り手と作者の峻別も厳密でなく恣意的であるとの批判を受けたものもある。しかしその一方で、申請者が行った研究では文芸批評作品の発表に際して『アクション・フランセーズ』紙やジュ・スイ・パルトゥ紙などの極右系政治新聞の論客から中傷ともいえる批判が浴びせられたことが明らかになっている。第二次世界大戦後にサルトルが『レ・テン・モデルヌ』誌を創刊して以降の作品生成コンテキストについては、ピエール・ブルデュの社会学理論に基づいた研究があるが、戦前・戦中期における極右勢力の文芸批評や文芸作品が果たした影響については、文学研究の分野において研究が進んでいない。

2. 研究の目的

本研究は、サルトルが *Les Temps modernes* 誌の創刊以前に執筆した文芸批評テキストを対象とし、作品執筆および作品発表時におけるフランスの文芸批評刊行状況を、特にファシスト系の雑誌や新聞を網羅的に調査することによって再構築するとともに、そのようにして明らかになった作品生成および出版コンテキストに基づき、サルトルの文芸批評テキストが当時果たした役割とその意義を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究では、サルトルが『レ・テン・モデルヌ』誌創刊前の時期に執筆した文芸批評作品を対象としてその生成・出版コンテキストを再構築し、サルトル作品における初期文芸批評作品の位置を再検討する。特に最初の伝記批評となる『ボードレール』に焦点を当て、次の三つのアプローチによる研究を推進した。

(1) フランス国立図書館およびそのオンライン・サービスの Gallica にて、ドイツ占領下に刊行された新聞や文芸誌を調査した。とりわけ、『ボードレール』が最初に序文として発表されたポワン・デュ・ジュール社の「アンシダンス incidences」コレクションの他の収録作品との関係や序文よりも前に、『ボードレール』が断片的に掲載された文芸誌『コンフリュアンス』を中心とした調査である。『コンフリュアンス』誌については、戦中からパリ解放期までに刊行された各号について悉皆調査をおこなった。

(2) ドイツ占領下における文芸批評テキストの生成・出版コンテキストの再構築を、『コンフリュアンス』誌に掲載された他の文芸雑誌に関わる記事等の分析によりおこなった。

特に同誌には他の文芸誌についての評論だけでなく、他誌が同誌を論評した記事についての報告を含んでおり、占領下のフランスにおける文芸誌の出版状況を概観するための重要な手がかりを与えてくれている。

(3) 同時代の他の作家による批評作品との精緻な比較からサルトル文芸批評作品の独自性を分析した。

(4) ドイツ占領下においてフランスで発行された新聞については、本研究計画の実施期間中に、フランス国立図書館のサービスである Gallica において Web を通じた公開が部分的に開始されたため、新聞資料の収集と閲覧については、同 Web サイトを積極的に利用してこれをおこなった。一方で文芸誌については、著作権の関係上、ドイツ占領下において発行された資料のデジタル化がほとんどすすんでいない。またデジタル化されていたとしても、フランス国立図書館外からの Web による閲覧ができないため、本研究計画が焦点を当てた『コンフリュアンス』誌などは、フランスでの調査が必要であった。

4. 研究成果

(1) 特に『ボードレール』を序文に付して刊行された『エクリ・ザンチーム』(1946)に着目し、同書が収められたポワン・デュ・ジュール社の「アンシダンス Incidences」コレクション全6巻について調査し、同シリーズが未刊行原稿を若手の作家の序文を付して刊行するという態度をとることで、商業的に一定の成功を収めていたことを年までに活動していた出版社であり、当初はモナコに拠点を置きヴィシーで印刷を行っていたが、後にパリに移転していること、さらに短い活動期間中の刊行点数を確認すると、文学書よりもフィリップ・スーポーなどの美術書の刊行に活動の力点を置いていたことなども調査から明らかとなった。このことはサルトルにおける初期批評文芸作品が、サルトルの意志やイニシアティヴにのみ由来するものではなく、作品を取り囲む通時的状況によって多元的に決定されることを、作品の刊行コンテキストをたどることから明らかにしたという点において意義が大きい。

(2) 第1号から第6号までコレクション番号が付され閲覧に供されているが、第3号にあたるサドの『美德の不幸』のみがフランス国立図書館では貴重本に分類されている(閲覧は可能)。「アンシダンス」コレクションでは表紙の裏面に発行部数などについての詳細が記されており、同コレクションが印刷番号を付されて発行されたことがわかる。しかし、マイクロフィッシュ化された刊本のほとんどには番号が所定の位置に番号が見当たらない。サルトルの序文が掲載された第4号のうち《16-Z-480(4)》が《EXEMPLAIRE No 453》、

《MFICHE 16-Z-480(4)》が《EXEMPLAIRE No 814》、第5号の《MFICHE 16-Z-480(5)》が《EXEMPLAIRE No 2619》と番号が付されているだけである。

《Dépôt légal》は、第1号から第3号までには明記されておらず、第4号から最終ページ下に記載され始める。それぞれの記述は次のとおり：《Dépôt légal : 4e trimestre 1946》(no 4, 1946)、《Dépôt légal, 2e trim. 47》(no 5, 1947)、《Dépôt légal, 4e trim. 47》(no 6, 1947)。既述した書誌情報からも明らかのように、《Incidences》コレクションは第3号から発行地をパリに移しているが、その第3号が納本制度に供されていないのは興味深い。

(3) 『ボードレール』が最初に断片的に掲載された文芸誌『コンフリユアンス』について、平成23年12月にフランス国立図書館にて調査をおこなった。この調査から次のことが分かった：1)同誌がヴィシー政権下のリヨンにおいてドイツ軍の検閲をかいくぐって創刊されたこと、2)ドイツ占領下のフランスにあって戦前のN.R.F誌に匹敵する質をもつと高く評価されていたこと、3)アラゴンのように偽名を用いて作品を発表する詩人もいたが、そのため何度か発行停止処分を受けていること、などである。

(4) フランスにおける資料調査は、『コンフリユアンス』誌という文芸雑誌がどのような特徴をもっていたのかを把握するため、創刊号からの書誌情報の一覧を作成した。特に、同誌に掲載されている他誌の寸評や他誌が同誌に対して施した寸評を採録している記事であり、また同誌に掲載された広告類に着目した。これらの記事類はいわば『コンフリユアンス』誌のパラテキストを構成しているが、これらパラテキストを分析することによって、同誌が同時代の他誌とどのような関係を保っていたかを明らかにすることができた。特に、この『コンフリユアンス』誌の出版ネットワークについては、ルイ・アラゴンが積極的な支援をおこなっていたことを明らかにした。

(5) 本研究では、『コンフリユアンス』誌を中心にして、他の同時代他誌との関係を確認するという手法をとっているが、同誌のマイクロフィッシュ化にともない、各号の巻頭および巻末に挿入されていた広告類はすべてマイクロフィッシュの最後に集められて保存されている。そのため、どの号がどの広告を掲載していたかなどの詳細については、マイクロフィッシュから知ることができず、その結果『コンフリユアンス』誌の創刊から最終号までを通じた他誌との関係の通時的変化を確認することが、現時点では厳密に行えないという問題があることがわかった。

(6) 『ボードレール』が「コレージュ・スピリチュエル」という題目のもとに文芸誌『コンフリユアンス』に掲載されるにあたり、1)戯曲『蠅』の原稿も編集部へ戦時中に送付されていたこと、2)戯曲作品が希望を描くのに対してボードレール論が高い倫理観に根ざした行動の実践を要求していること、3)このサルトルの主張はフローベールを筆頭とした「フランス的精神」を批判することで成り立っているとも考えられる点でボードレール論は編集部の判断により戦時中には発表されなかったことを、フランス国立図書館における『コンフリユアンス』誌を始めとするドイツ占領下におけるフランス文芸誌を対象とした集中的な資料調査から明らかにした。

(7) 本研究計画の実施期間中におこなった調査で収集した資料については、研究代表者が管理するwikiサイト(<http://rlfsoa.wikidot.com/>)にてこれを公開している。同サイトでは、平成24年度より作成してきた『科学研究費補助金中間報告書』の三回分のPDFファイルと、さらに本研究計画において参照・閲覧した参考文献等も掲載し、研究成果の社会発信に努めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

SHIGEMI Shinya, “La littérature et ses matières de support”, Site Web Fabula [<http://www.fabula.org/colloques/document1537.php>].

重見晋也, 「サルトル『ボードレール』のパラテキスト。Point du Jour版 prépublication を対象とした調査の中間報告」、『広島大学フランス文学研究』30、広島大学フランス文学研究会、2011年、pp. 36-53.

重見晋也, 「パラテキスト研究の問題点。Confluences誌を対象とした調査の事例に基づいて」、『HERSETEC』, vol. 5, no 2, 2012, pp.15-41.

重見晋也, 「ドイツ占領下のフランスにおける検閲制度と文芸誌 Confluences-サルトル『ボードレール』の生成との関連において」、『HERSETEC』, vol. 7, no 1, 2013, pp. 25-56.

重見晋也, 「『コレージュ・スピリチュエル』としての『ボードレール』」, 名古屋大学文学部研究論集、文学 61, vol. 181, 2015, pp. 113-126.

〔学会発表〕(計2件)

SHIGEMI Shinya, “La littérature et ses

matières de support”, Colloque international : «Enseigner la littérature à l’ université aujourd’ hui», Université de Provence (France), du 10 au 12 mars 2011.

重見晋也、「サルトル『ボードレール』の
パラテキスト」、広島大学フランス文学研究
会(広島大学) 2011年7月30日。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://rlfsoa.wikidot.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

重見 晋也 (SHIGEMI Shinya)

名古屋大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：40303573

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：